

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 26 年 9 月 18 日 (2014.9.18)

【公表番号】特表 2013-531525 (P2013-531525A)  
 【公表日】平成 25 年 8 月 8 日 (2013.8.8)  
 【年通号数】公開・登録公報 2013-042  
 【出願番号】特願 2013-514414 (P2013-514414)  
 【国際特許分類】

A 6 1 B 5/05 (2006.01)

A 6 1 B 5/0408 (2006.01)

A 6 1 B 5/0478 (2006.01)

A 6 1 B 5/0492 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 5/05 B

A 6 1 B 5/04 3 0 0 J

【手続補正書】  
 【提出日】平成 26 年 7 月 31 日 (2014.7.31)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 1 3 0  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 1 3 0】

いくつかの実施形態では、複数の周波数および所望の P A R すなわち単位元に近い P A R による励起は、擬似ランダム系列を生成することによって構築される。いかなる理論にも拘束されるものではないが、 $f_s$  のサンプリング時に生成される長さ  $L$  の擬似ランダム系列が、 $f_s / L$  刻みで 0 (D C 周波数に対応する)  $\sim f_s / 2$  のエイリアスされていない離散周波数音 (discrete un-aliased tones of frequency) を含有することは公知である。個別の音の位相が  $-\pi \sim +\pi$  にわたって均一に分散される間、各周波数 (D C を除く) における電力は等分布される。

【手続補正 2】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 2 1 2  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 2 1 2】  
 【化 4】

$$\cos(\theta) = \frac{\text{マーカ間の見かけの距離}}{\text{マーカ間の実際の距離}} \quad (4)$$

線形レイアウト内の 2 つのマーカ間の実際の距離  $d$  は、演繹的に絶対値として分かる。しかし、2 D 画像から行われるすべての測定は、典型的には、スクリーンなどの適切な表示媒体上のピクセルの数に関して確認される。ピクセルに関して測定された距離を実世界の寸法 (ミリメートルなど) に変換することが必要とされている。ピクセルのミリメートルへのマッピングは、3 D マッピングを計算するのに必要とされる。このマッピングは、X 線スキャナによって使用されるピクチャの解像度、使用される X 線のズーム倍率などの、使用される画像診断法に固有の種々のパラメータに依存する。1 つの例示的な実施形態では、ピクセルからミリメートルへのマッピングは、( i ) ズームおよびピクチャ解像度 (行および列) の撮像デバイスから取得された X 線画像、( i i ) マーカ間隔が演繹

的に分かる任意の平面上に置かれた「基準パッチ」の２Ｄピクチャの分析、のうちの少なくとも１つによって得られることができる。行および列に沿ったパッチマーカ距離および行と列の間の角度を測定することによって、実際の長さ（たとえば１ｍｍ）あたりのピクセルの数を導出することが可能である。